

## ダイワ/ミレーアセット・インド株式ファンド –インドの匠– 最近のインド株式市況と今後の見通し ～短期的には調整局面を迎えているが、中長期では 魅力的な投資機会～

2018年10月16日

### お伝えしたいポイント

- ・ 設定来の運用状況: **現地通貨ベースでは9月以降に調整局面、インド・ルピーが対円で下落したことも影響し、日本円ベースでマイナス**
- ・ 今後の見通し: **短期的にはボラタイルな展開が想定されるが、中長期では外部環境の安定に伴って魅力的な投資機会**
- ・ 今後の方針: **持続的な利益成長が期待される銘柄を発掘して投資継続**

#### ＜基準価額・純資産の推移＞

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

2018年9月28日現在

基準価額	7,999 円
純資産総額	516億円

期間別騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	-9.6 %
3カ月間	-2.1 %
6カ月間	-6.1 %
1年間	----
3年間	----
5年間	----
年初来	-21.0 %
設定来	-20.0 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

#### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡す「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額のお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

## 設定来の運用状況

＜現地通貨ベースでは9月以降に調整局面、インド・ルピーが対円で下落したことも影響し、日本円ベースでマイナス＞

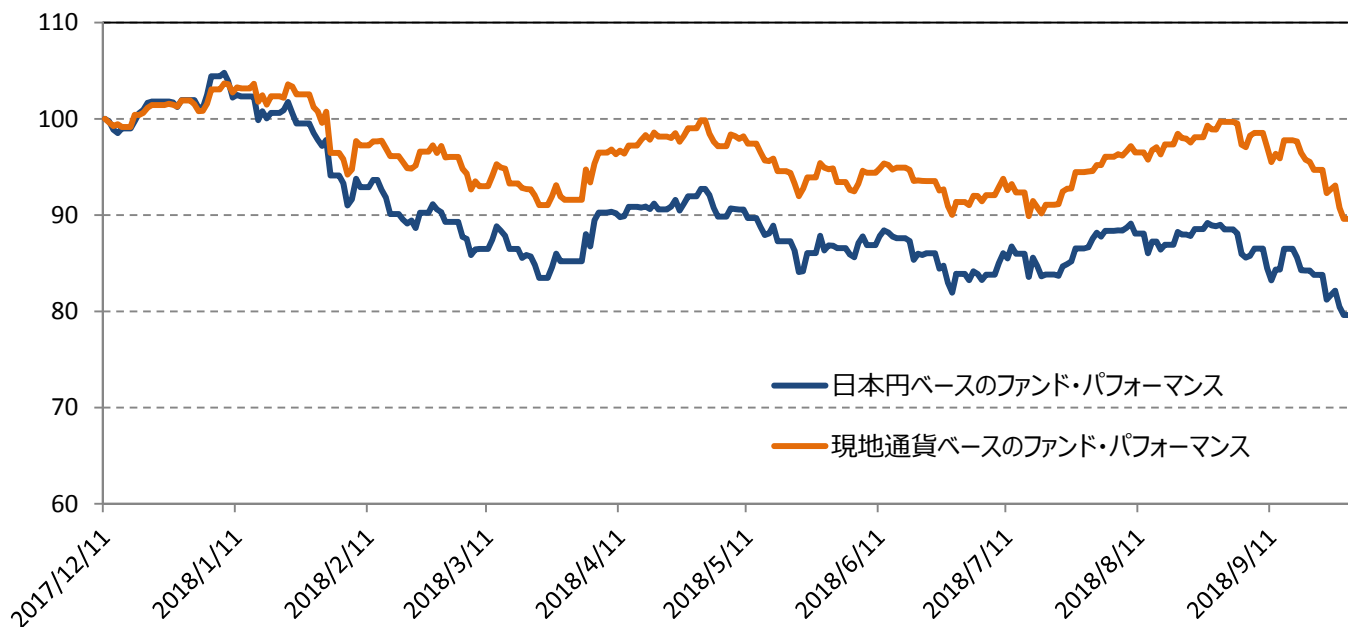
### 【設定来の運用状況について】

設定来のインド株式市場（中型株）は、米国の長期金利上昇、一部の国営銀行の不祥事などで投資家心理が悪化したことなどから軟調な展開が続きました。バリュエーションに対する警戒感や、キャピタルゲイン税の導入、インド国内籍株式投信の再分類実施などの影響、原油価格上昇や米中貿易摩擦といった外部要因に影響を受けながら、中型株式市場の売り圧力が高まり、ファンドのパフォーマンスにもマイナスとなりました。しかし、2018年7月以降は、原油価格の下落や、金融機関の不良債権処理進展期待などから反発し、8月末には現地通貨ベースでは設定時の水準を回復しました。しかし、9月以降は原油高が進行したこと、米中貿易摩擦悪化懸念などから売り圧力が高まり、再び下落基調となりました。

為替市場では、米国の利上げ実施への懸念や経常収支の悪化、トルコなど新興国経済に対する不安などが重なったことからインド・ルピー安が継続し、日本円ベースでのファンドパフォーマンスは低迷しています。

### ＜組入ファンドのパフォーマンス推移(日本円および現地通貨ベース)＞

(現地 2017年12月11日 ~ 2018年9月28日)



※組入ファンドは、ミレーアセット・インド・ミッドキャップ・エクイティ・ファンド(円クラス)  
2017年12月11日=100として指数化  
(出所)ブルームバーグ、ミレーアセット・グローバル・インベストメンツ

## 今後の見通し

＜短期的にはボラタイルな展開が想定されるが、中長期では外部環境の安定に伴って魅力的な投資機会＞

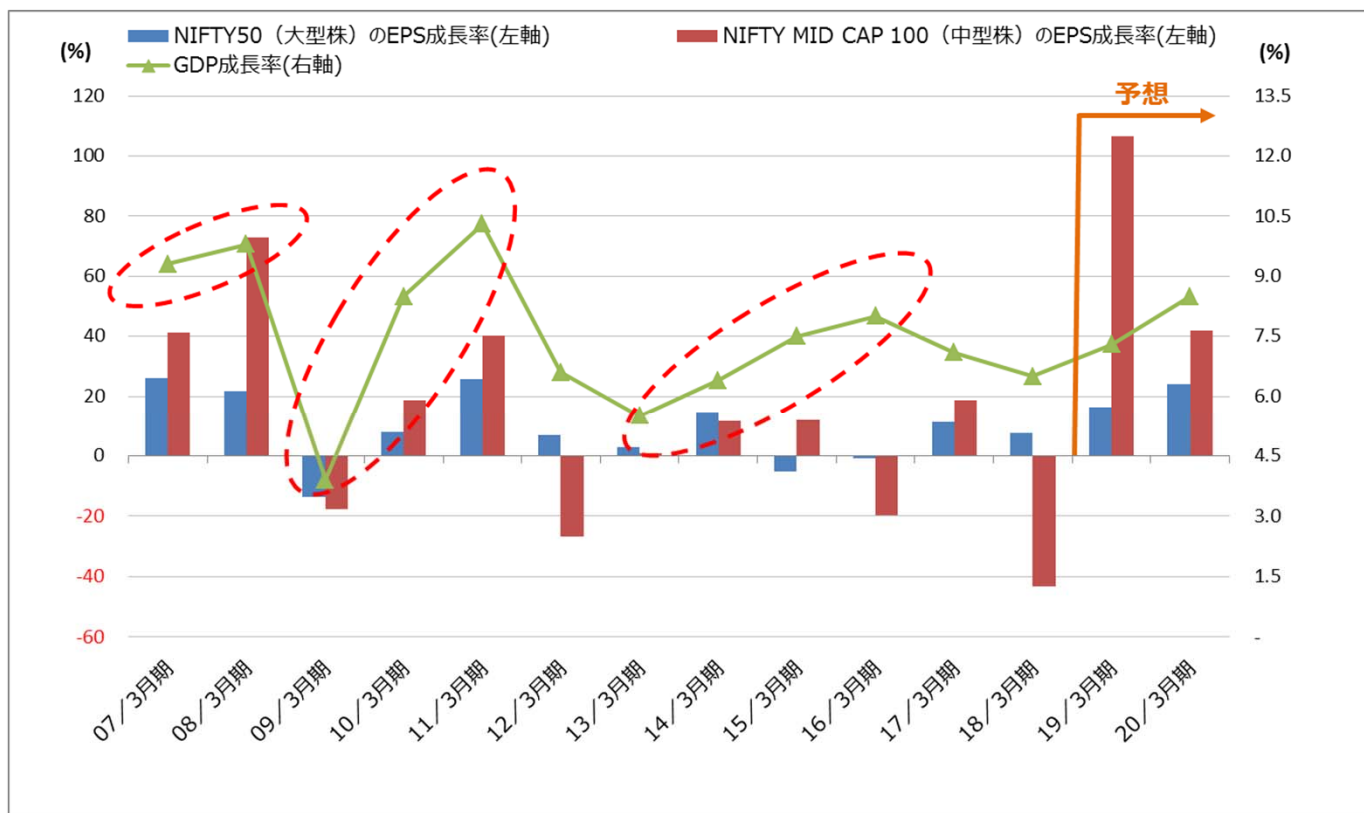
### 【足元の市場環境および今後の見通し】

最近の原油価格上昇、米国の利上げによる新興国からの資金流出懸念、深刻化する米中の貿易摩擦、来年の総選挙を控えた政治への不透明感などが短期的にはリスク要因となり、当面は不安定な状況が続く可能性があるとみています。

しかし、GST(物品・サービス税)や企業破産・倒産法、不動産の開発、販売規制に関する法律の導入など政府の構造改革が企業活動の促進や金融システムの健全化に貢献し、また高い生産年齢人口、中間所得層の増加など良好なマクロ環境などが支援材料となり、中長期的には高い経済成長率が続くことが予想されます。

特に、過去の事例を見ると、良好な経済成長が続く場合は、大型株より中型株の利益成長が相対的に高くなる傾向が見られるため、長期的な観点から中型株に投資することが有効な投資戦略と考えています。

### ＜GDP成長率と大型株・中型株における利益成長率の推移＞



(出所)ブルームバーグ、ミレーアセット・グローバル・インベストメンツ

## 運用方針

## ＜持続的な利益成長が期待される銘柄を発掘して 投資継続＞

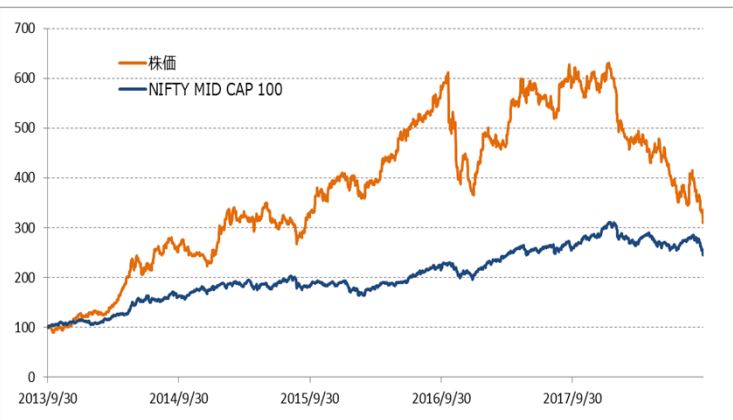
当ファンドでは、一時的な要因で調整局面に入ったものの、良好な外部環境から恩恵を受け、今後も利益成長が期待される銘柄を積極的に発掘し、ファンドのパフォーマンス改善に取り組んでいきます。

### ＜投資事例＞

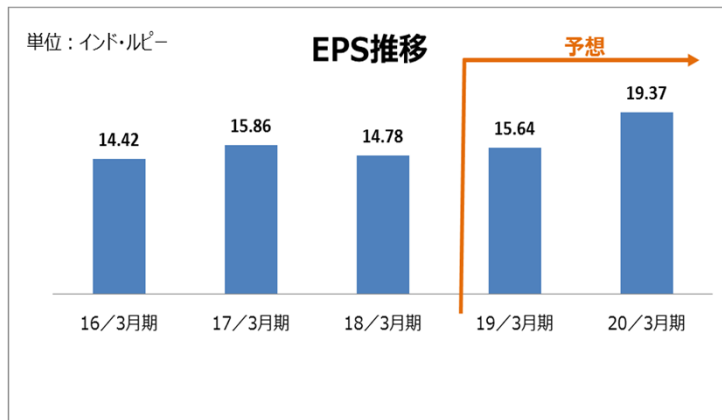
#### ●Kajaria Ceramics

同社は、インド最大手のタイル生産会社で、ここ10年間売上が年平均10%以上成長するほど、優れた成長性を有する会社です。最近では原料価格上昇による利益の減少や不十分なGSTへの対応、競合他社の設備増設によるプレミアム製品の価格調整などが嫌気され、株価は軟調な動きとなっています。しかし、中国と比較して少ないインドのタイル消費量や50%程度に留まっている国内メーカーのマーケット・シェアなどを考慮すると、今後も成長余地が大きいと判断されます。

#### 株価とEPS(1株当たり利益)推移 2013年9月末～2018年9月末



※2013年8月31日=100として指数化  
(出所)ブルームバーグ



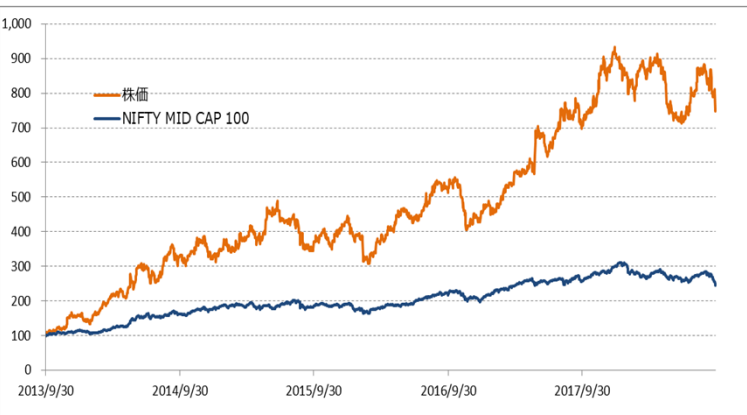
(出所)ブルームバーグ

#### ●Voltas

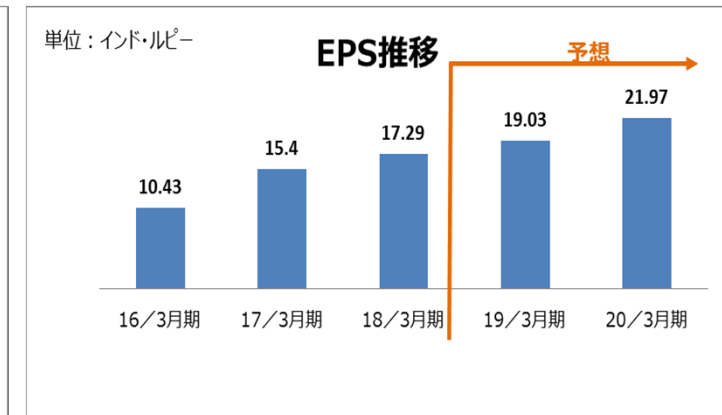
同社は、空調装置の生産や販売、設置およびメンテナンスなどを手がけており、マーケット・シェアの上昇が見込まれる成長性の優れた会社です。予想より温和な今年の気候やルピー安の影響などから、株価は調整しました。しかし、インドにおける空調の普及が期待される点や、合併会社の設立により洗濯機、冷蔵庫、電子レンジなど商品群の多様化に取り組んでいることを考えると、今後も更なる成長が期待されます。

#### 株価とEPS推移

2013年9月末～2018年9月末



※2013年8月31日=100として指数化  
(出所)ブルームバーグ



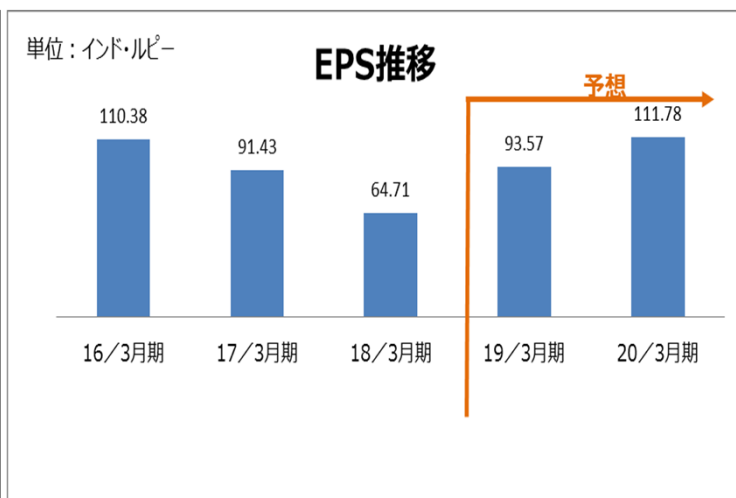
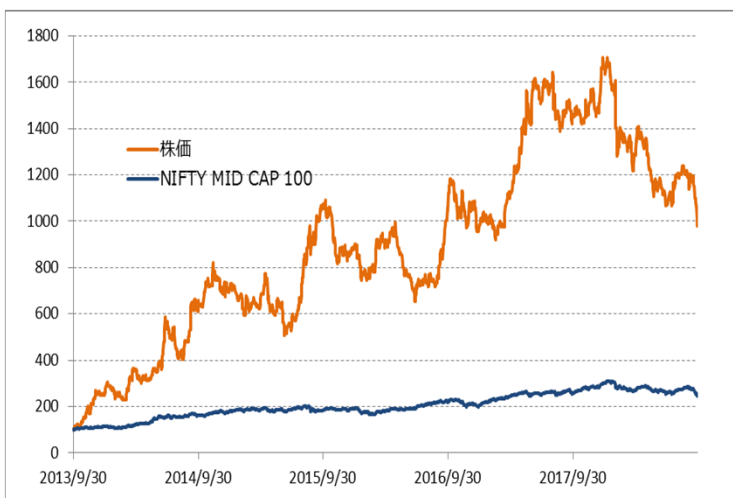
(出所)ブルームバーグ

## ●CEAT

同社は、インド大手のタイヤ生産会社です。今後4～5年間で巨額投資を行うとの理由で同社の財務状況に対する懸念が高まり、株価は調整しました。しかし、巨額投資が今後ROIC(投下資本利益率)の改善に貢献すると予想されることや、バイク用タイヤのマーケット・シェアが3割に達するなど所得水準の向上による乗用車ニーズの拡大などが追い風になり、今後も利益成長が続くと期待されます。

### 株価とEPS推移

2013年9月末～2018年9月末



※2013年8月31日 = 100として指数化  
(出所)ブルームバーグ

(出所)ブルームバーグ

## ダイワ／ミレーアセット・インド株式ファンド –インドの匠–

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

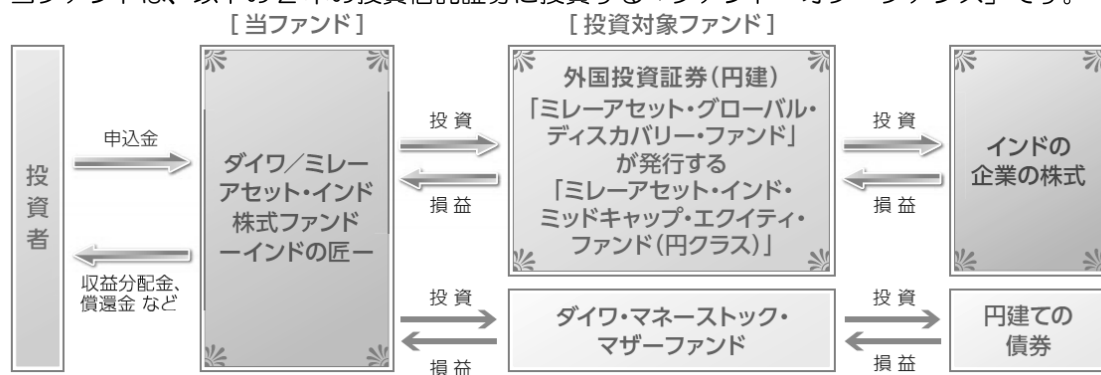
### ファンドの目的・特色

#### ファンドの目的

インドの企業の株式に投資し、信託財産の成長をめざします。

#### ファンドの特色

1. インドの企業の株式の中から、財務状況、成長性、経営の質等に着目し投資します。  
(注)「株式」…DR（預託証券）を含みます。
2. インド株式の運用は、ミレーアセット社が行ないます。
3. 当ファンドは、以下の2本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。



※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

### 投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の変動要因は、以下のとおりです。

「株価の変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「中小型株式への投資リスク」、「為替変動リスク」、「カンントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※新興国には先進国とは異なる新興国市場のリスクなどがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

## ダイワ／ミレーアセット・インド株式ファンド –インドの匠–

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

### ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 <上限>3.24%(税抜3.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.215% (税抜 1.125%)	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資対象とする 投資信託証券	年率 0.68%程度	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する 運用管理費用	年率 1.895% (税込) 程度	
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

販売会社:

**大和証券**

Daiwa Securities

商号等 大和証券株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号  
加入協会 日本証券業協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会  
一般社団法人金融先物取引業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用:

**大和投資信託**

Daiwa Asset Management

商号等 大和証券投資信託委託株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号  
加入協会 一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会